

CSAの普及・促進活動

【NPO法人ファームダイレクト】

1. CSAの歴史的背景と日本の事例

CSAの歴史的背景

CSAとは・・・Community Supported Agricultureの略 (地域社会が支援する農業)

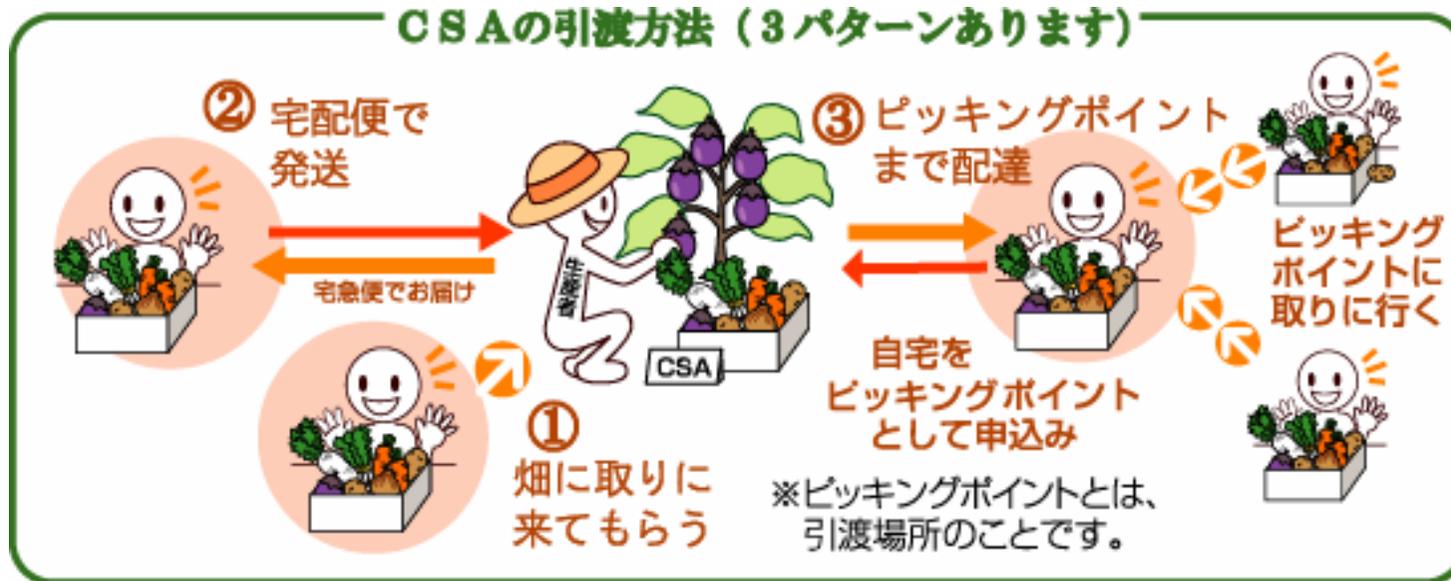
- 1986年 : アメリカ北東部地域の2つの農場で開始
(起源: スイスの協同組合、ドイツのバイオダイナミック農業)
- 1990年代～ : 急激に増加(背景: 有機農業の草の根運動)
- 2003年 : URGENCI(国際提携運動ネットワーク)
- 2010年 : 全米で約3,000のCSA(2,3年で急激に増加)

日本におけるCSA事例

2010年現在: 数件

- なないろ畑農場(神奈川県)
- メノビレッジ長沼(北海道)
- 生活学校バイオダイナミック・ファーム(北海道)等

2. CSAの仕組み



CSAは、アメリカやヨーロッパを中心に、拡がりを見せた生産者から消費者への地場の生産物を直接販売する仕組みで、一定期間に収穫される特定の生産者や生産グループの生産物を、その生産者や生産グループのCSAに申し込んだ参加者に引き渡すというものです。参加者は収穫やピッキングをサポートしたり、体験したりと「農」に触れ合いながら、参加するのが最大の特徴です。引き渡すことのできる分量が、天候等の影響で若干のズレが生じても、その時に収穫できた分だけを引き渡すこととなります。

3. 目指すべき「日本版リアルCSA」とは？

目指すべきCSA＝「日本版 リアルCSA の普及・促進」

・「日本版とは」

- 1 生産者と生産物の情報をできる限り公開して、**消費者と密にコミュニケーション**をとることができる仕組みを構築（ファームダイレクトサイト コミュニティ参照 <http://f-direct.net/?cmd=Comm>）
- 2 代金支払方法に関して、一括前払いだけでなく、CSA期間中の分割払という方法を採用。万が一、全く生産物が配布されないような場合は、**決済金額を調整することで、リスクを生産者と消費者に分散**。
- 3 アメリカやヨーロッパに比べて国土が狭く、小規模農業の多い日本の現状を踏まえて、**産地や地域にマッチしたCSAモデル**を構築。
(ex.短期CSA・・・もともと反収の少ない時期に、1～3ヶ月程度で実施。共同CSA・・・ごく近隣生産者同士での共同実施。)
- 4 より継続的な導入・運営を行う為、**CSAコーディネーター【P6以降参照】**という仕組みを採用。

・「リアルCSAとは」

本来のCSAは、消費者が「**地域の農業(農地)を守るため**」や「**環境に配慮した持続可能な農業を応援したい**」という**目的**をもって、「近くの畑・農園で、実際に生産者や『農』に触れ合いながら、収穫された生産物を地域社会で消費する」という地産地消の仕組みの一つ。昨今、特にアメリカでは、単なるお野菜の定期宅配や野菜BOXの宅配等に対してもCSAという用語が広義で使われ始めていることから、**それらと区別する為に、目指すべきCSAとして「リアルCSA」という用語を使用**。

4. CSA参加者の顧客ニーズの特徴

CSA申込段階の
顧客のニーズ

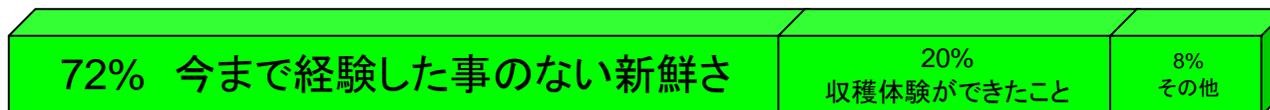
⇒

- 1 新鮮で安心安全な生産物が欲しい
- 2 実際に生産現場を見てみたい。体験したい。

・「新鮮で安心安全な生産物が欲しい」

アンケートの実施やCSA参加者からの実際の声で圧倒的に多かったのは、
とにかく「**新鮮**」という回答！！

CSAに参加して一番良かった点(実施後アンケートより抜粋)



Ex. 日頃買えない野菜があった事
食卓が豊かになった事
地域社会の農を知れた事
などなど

・「実際に生産現場を見てみたい。体験したい。」

申込段階の顧客ニーズとしては、「**単なる収穫体験**」レベル(特に子供達に体験させてあげたいというニーズ)

顧客ニーズに関するCSAの特徴

『新鮮・安心・安全』『収穫を体験したい』というレベルの単発的でプリミティブな顧客ニーズ

↓ CSAに参加することにより

『地域社会の田んぼや畑を守っていかなければならない』『環境に配慮した持続可能な農業を応援していこう』という地域社会の「農」と継続的な関わりに興味・関心をもつレベルに少しずつ変化していく事が社会の変革や食育に繋がる！！

5. CSAの導入・運営パターンと収入

① 生産者のみで 導入・運営

生産者・生産者団体に
豊富な直売経験がある
販売・サービス担当のスタッフがいる等



生産者・生産者団体のみで
導入・運営が可能！！

売上代金の **92%** = 生産者・生産者団体の収入！！

売上代金の **8%** = NPOファームダイレクトの手数料 【クレジットカード決済手数料+振込・入金手数料の実費分】

【既にHPや決済方法の準備ができており、ファームダイレクトサイトでその告知・募集をする場合は、手数料等は一切かかりません。8%はあくまで、ファームダイレクトサイト上での決済を利用した場合に発生する手数料となります。】

CSAコーディネーターの仕組みを取り入れて、導入・運営！！

- ② 生産者がCSAコーディネーターを募集
- ③ CSAコーディネーターが生産者とCSA導入を立案
- ④ 生産者が管理耕作地を利用し、就農者や研修生を募集して、
生産者がCSAコーディネーターとして導入を指導・立案 【 9. 生産者のコーディネーターとしての可能性参照 】

売上代金の **80%** = 生産者・生産者団体の収入！！

売上代金の **12%** = CSAコーディネーターの収入！！

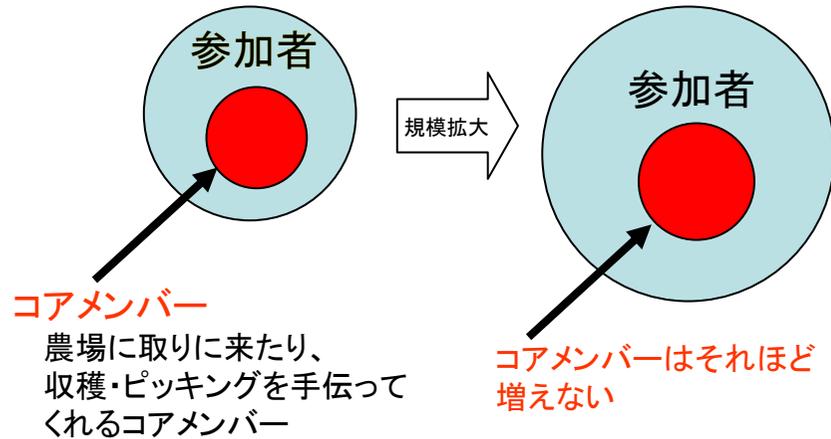
売上代金の **8%** = NPOファームダイレクトの手数料 【クレジットカード決済手数料+振込・入金手数料の実費分】

CSAの普及・促進活動

【NPO法人ファームダイレクト】

6. CSAコーディネーターの必要性

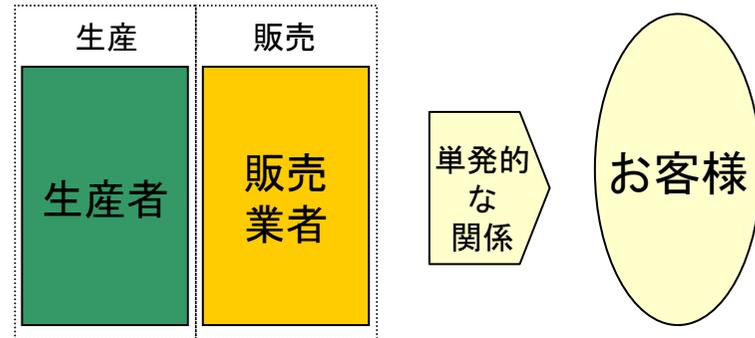
日本版リアルCSAの持続的発展



コアメンバー以外の参加者の入れ替わりは10%程度!!
 コアメンバーだけであれば、生産者のみでも充分対応可能ですが、コアメンバーはそれほど急激に増えていかないのが現状です。
 コアメンバー以外の参加者の中には、「子供に体験させたいだけの人」「安全な野菜が欲しいだけの人」など様々な要望を持った参加者がいます。
 CSAの趣旨を理解してもらった上でのある程度の参加者毎の要望に応じていかなければ、規模を維持・拡大することができません。持続的発展の為に「ある程度のサービス」をサポートするのが、CSAコーディネーターの役割となります!!
 特に「子供に体験させたいだけ」で参加している参加者に継続的に参加してもらうことは、将来世代の食育や消費者文化の発展に大きく貢献することとなります。

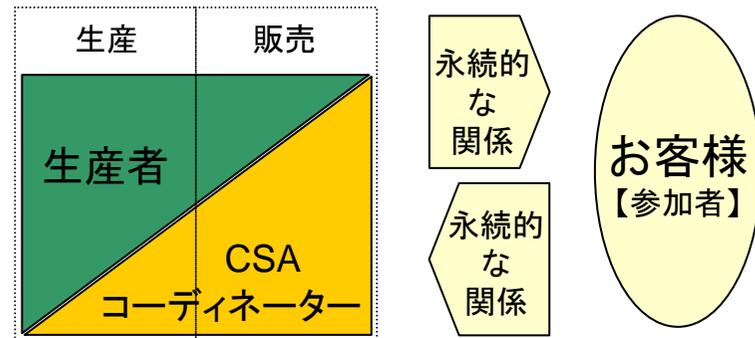
CSAコーディネーターの役割

既存の流通



持続的で円滑なCSA運営や直売の為に！！

目指すべきカタチ



持続的な関係を構築する為のある程度のケア(販売サービス)は必要!!

7. CSAコーディネーターのメリット（1）

CSAコーディネーターのメリット

- 1 「生産者から消費者へダイレクトに」という誰しもが持っている理念を、各地域で個別に行くと、無駄な固定費が発生してしまい（例えば、サイト制作費や固定費等）、生産性の低い農業の競争力をさらに弱めてしまう。同じ理念の者が集まるメリットを味わうことができる！！
- 2 CSAコーディネーター同士の情報交換や最新の優良事例を集めたCSA導入ノウハウを配信。
- 3 CSA導入という最先端のやりがいのある仕事をするにより、地域社会に貢献できる！！

CSAコーディネーターの心がまえ

参加者にとっては、畑の場所がよくわかる（地元・近隣等）ので、安心して参加しやすい！！
「（超）がつく程の新鮮さ」と「体験したい」というプリミティブな顧客ニーズを訴求するだけでも、参加者の募集は比較的容易！！

という事は

生産者と共同して、緻密な栽培計画を立案し、理念を共有できれば、容易にCSAを導入し、軌道に乗せることが可能！！

さらに、CSAコーディネーターに必要な事！！

- ・生産者の弱い部分（サービス）をサポートし、地域社会と永続的な関係を築くことができるか？
（具体的には、PCスキルや営業力を有してるか？CSA導入のノウハウは情報として提供します。）
- ・生産者の反収を上げるという強い意識を持っているか？
- ・CSA以外でもその生産者の販売チャネルを拡げることができるか？
- ・生産者との深い信頼関係を構築することができるか？

8. CSAコーディネーターのメリット（2）

CSAコーディネーターの活動は、生産者からも消費者からも「ありがとう」と感謝され、地域社会や地球環境に貢献できる **やりがい** があります！！



今日の私達の食生活は、利便性を追求した結果、本来あるべきである消費者と生産者の「つながり」が犠牲にされ、**両者の距離がどんどん広がってきたのが現状です。**

消費者が実際に栽培現場を知り、作り手のわかる農産物を好むようになることで、**現状の流通による無駄を削減**することができ、**生産者も環境負荷を考えた栽培へ移行**することができます。

生産者と消費者がより繋がった社会を目指すには、生産者が消費者の声に直接触れ、消費者が生産現場をより深く知ることが大切です。

その一つの手段として、CSAという仕組みがあります。但し、CSAを導入させるには、生産者だけの活動では難しいのも現状です。バランス感覚をもって、CSA導入をコーディネートし、サポートしていくコーディネーターが必要となってきます。

ファームダイレクトでは、CSAを全国に広める為に、一緒に日本の農業の仕組みを変えていくことのできるコーディネーターを募集しています。是非、ご参加ください！！

9. 生産者のコーディネーターとしての可能性

生産者がCSAコーディネーターとして活動するメリット

- 1 今まで蓄積した栽培技術やその土地ならではのノウハウを、農業従事希望者や新規就農者・研修生に指導することで、技術を収益に繋げることができます。
- 2 今後、増えてくるであろう管理を依頼されたり、管理できるチャンスのある耕作地が、集積していなくても、その部分をCSAとして運用することで、管理耕地面積を増やすことができます。
- 3 大規模化と高付加価値化を両立できます。
- 4 これからの日本の農業の発展の為に、管理・保有している耕作地を農業以外に利用して、運用するのではなく、農業に利用しながら、運用・収益をあげていくことが大切です。

生産者にとって、今はチャンス時代です！！

これからの団塊の世代の引退に伴い、就農者人口は劇的に減り、耕作放棄地が急激に増えてきます。一方で、新規就農希望者も増えますが、実際に就農する間口が狭いのも現状です。新規就農希望者も一時的なアルバイトや小作人ではなく、自立しながら農業に従事していく事が大切です。

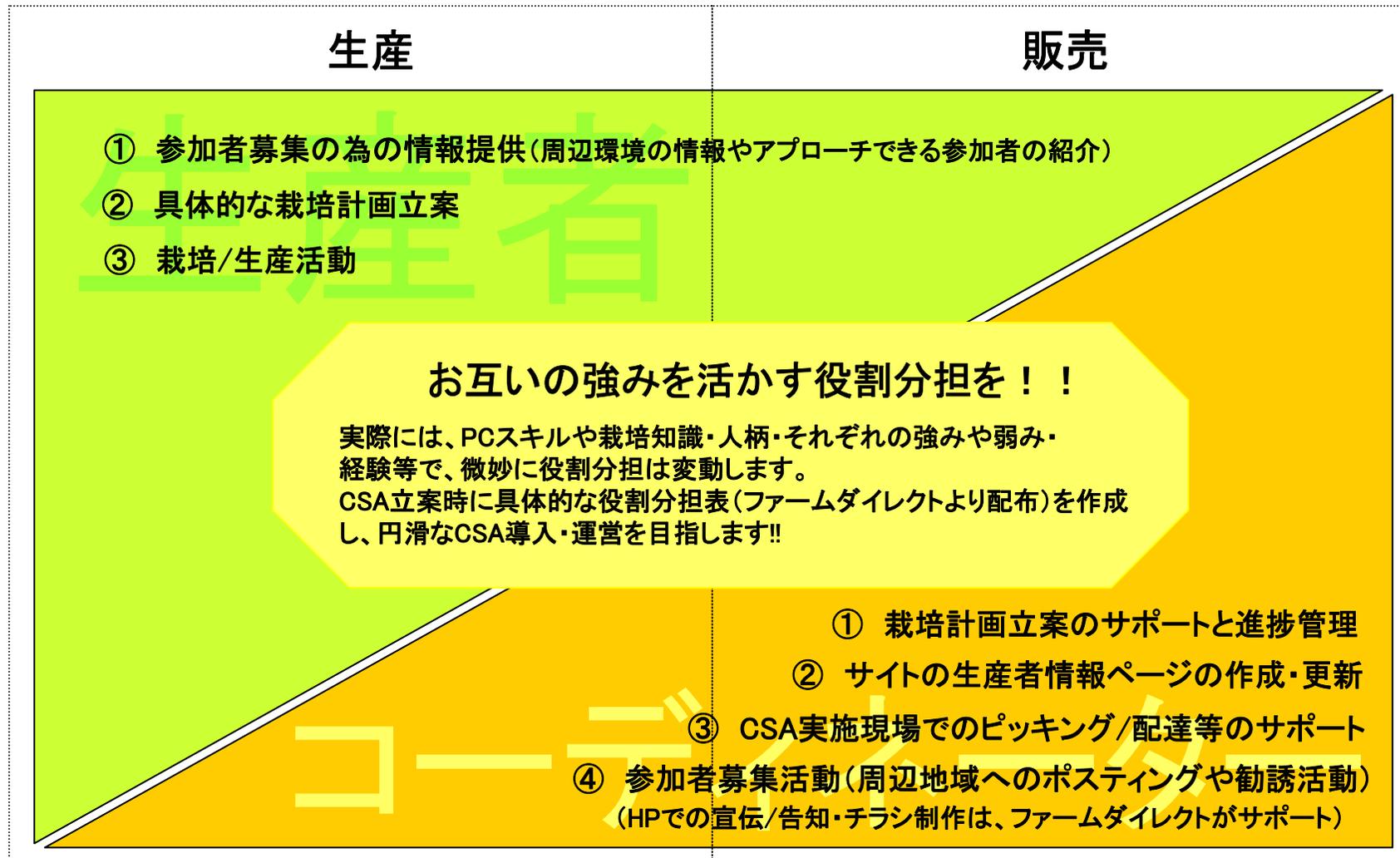
これから増えてくる耕作放棄地をどんどん管理していことができ、栽培技術も持っている今の生産者が、その技術と人の繋がりを利用して、耕作放棄地を耕作地として利用・運用していくチャンス時代です。



主に栽培を担当する生産者とサポートするCSAコーディネーターには、様々なパターンと役割分担があります。ボランティアスタッフを利用することも可能です。まずはご相談ください！！

10. CSAコーディネーターの役割（1）

生産者とCSAコーディネーターの役割分担の例



CSAの普及・促進活動

【NPO法人ファームダイレクト】



1 1. CSAコーディネーターの役割（2）

コーディネーターの具体的な役割（役割分担表）

生産者	役割分担表	コーディネーター
●	栽培計画立案	●
●	参加者募集の為の情報提供（周辺環境の情報やアプローチできる参加者の紹介等）	
	参加者募集活動計画を立案【CSAヒアリングシート(ファームダイレクトより配布)を活用】	●
	サイトの生産者ページの作成・更新	●
	参加者募集活動(ex.チラシ配布や地域社会での営業活動) ※コーディネーターの重要な役割！！ 【生産者が日頃生産物をおすすめしている周辺住民等、アプローチできる可能性のある参加者に対して、生産者自身ではなく、コーディネーターがCSAの趣旨を説明して、アプローチすることが大切！！】	●
●	栽培計画に基づく生産・栽培活動	
	栽培計画の進捗管理/参加者との調整	●
●	ブログや栽培進捗情報の参加者への告知 ※生産者のPCスキルにより、役割分担は変動 【例：生産者がブログ投稿シートをコーディネーターに提出し、コーディネーターがサイト上で発信等】	●
●	CSA実施日の収穫やピッキング・近隣への配達等	●
その他 CSAコーディネーターの付加価値		
	栽培計画・募集計画が予定通り進捗しなかった場合(例：CSA期間の収穫に間に合わなかった野菜等)の販売先の確保	<input type="checkbox"/>
	栽培技術指導・栽培のサポート・耕作地の提供/準備・耕作機械の貸与等	<input type="checkbox"/>

CSAの普及・促進活動

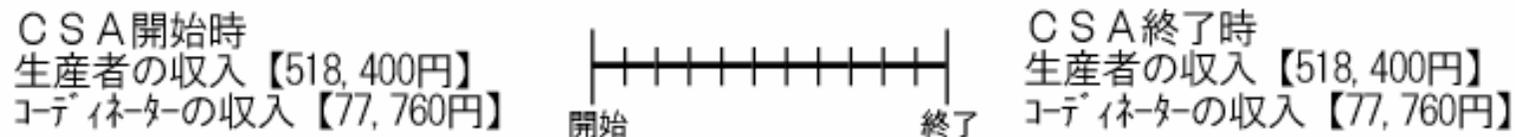
【NPO法人ファームダイレクト】



1 2. 役割に対する収入（例）

例：【12週CSA（3ヶ月間の場合）口数:60口（1口/1週:¥1,800）】

総額:¥1,296,000（1,800円×60口×12週）



※代金回収時期 12週以内のCSA・・・開始時に半額。終了時に半額。
13週以上のCSA・・・開始時に半額。残りの半額は、2ヶ月毎に按分。

生産者の役割に対する収入（1,036,800円）

- ・計画に基づいた栽培（ロジ2反分）+栽培の進捗をコーディネーターに報告【適宜】
- ・実施日【週1回×12週=12日】の収穫と参加者への引渡作業

コーディネーターの役割に対する収入（155,520円）（生産者のみで導入/運営する場合は、生産者の収入）

- ・参加者募集活動【近隣へのアプローチ:3日~7日】
（募集活動は、地域社会との永続的な関係の構築度合/実施回数により、短縮可能！！）
- ・生産者/ファームダイレクト事務局との打ち合わせ【適宜】
- ・実施日【週1回×12週=12日】の収穫補助と参加者への引渡作業
- ・サイト上での参加者への進捗報告【目安:週1回】や問題が発生した場合の仲裁等

13. CSA導入ガイド（1）

CSAを導入するPOINT（抜粋）！！

～多品種栽培の栽培技術があり、直売経験の豊富な生産者～
反収の上がない時期に、1ヶ月～3ヶ月の短期CSAの導入を立案→30口～60口で実施。
→軌道にのると、人員を増やして、規模拡大・長期CSAへ移行

～新規就農者・新規の生産者～
ロジ栽培で自家需要分でまかなえるくらいのCSAの導入を立案→5口～10口で実施。
→軌道にのると、人員を増やして、規模拡大・長期CSAへ移行

～単一品種を専門にしている生産者～
ごく近隣の数軒の生産者をまとめて、共同CSAを立案→募集をかけて、応募分のみを実施。
→軌道にのると、規模拡大へ。

（詳しくは、CSA導入ノウハウ参照）

NPO法人 ファームダイレクトがサポートすること！！

- ・実績に基づくCSA導入計画立案のサポート と 栽培計画・導入ノウハウの提供
- ・CSA募集時の販促物（パンフレット等）の提供
- ・募集時のサイト上での告知・宣伝
【運営後の消費者（参加者）へのアプローチは、サイト管理画面上から各自で行うことができます。】
- ・各地域での「CSA見本市」の開催
- ・運営のサポート（ファームダイレクトスタッフの訪問orボランティアスタッフが近くにいる地域は、常駐スタッフを派遣）

CSAの普及・促進活動

【NPO法人ファームダイレクト】



14. CSA導入ガイド(2)

募集時のチラシ(例)

私たちが毎日食べている野菜や果物や穀物。実際に栽培現場を訪れたり、生産者と話をしたことがありますか？ 生産者と消費者がもっと繋がる社会。始めよう。農を身近に感じる生活。日本初のCSA応援サイト誕生！

今日は、畑に行こう。
生産者の採れたて野菜を食卓に！

直売所よりも、新鮮・安心
楽しんで地産地消を！

地域社会が Community Supported Agriculture

第1弾 泉州 泉佐野地域

CSA申込受付 限定60口

今日は畑に行こう
生産者の採れたて野菜を食卓に！

CSA
地域社会が Community Supported Agriculture

CSA(シーエスエー)とは、あなたの近くの畑・農園で採れた作物を、その周辺のみならず消費する仕組みです。生産者(農・農園)からダイレクトに消費者(地域の住民)へ、楽しんで地産地消を！！

お近くの農園で CSA募集中!

詳しくは コチラ

YAHOO! Googleで検索

フォームダイレクト 検索

●CSAがよくわからない! ●どんなメリットがあるの? ●直売所とどう違う? etc...

●農の詳細地図サイトを確認!! ●CSA体験談をブック!! ●FD(ファームダイレクト)連携をチェック!!

●オンラインショップで買い物!! ●畑のブログをチェック!! ●お休みのレストラン情報を検索!!

直売所よりも、新鮮・安心・お得意!! 楽しんで地産地消を!!

Farm Direct <http://f-direct.net/>

FOOD ACTION NIPPON みんなで食料自給率アップ!

募集時の販促物や消費者への啓蒙資料は、必要に応じて無償提供します！！

CSA体験談 CSAの体験談の一部をご紹介します。

子供と一緒に毎週、畑に行きました。日曜、スーパー等で買っている野菜しか見たことのない子供たちにとっては、畑に採りに行くことのめが楽しい体験の上でした。また、近くで採れば参加したいです。
【34歳女性・主婦】

生産者と一緒に、選んでいる野菜を味わうことができました。野菜の栽培期間等、新しい発見ばかりだったので、本当に勉強になりました。
【40歳女性・主婦】

最初は、野菜を運べない気がかりでしたが、生産者さん(家庭菜園的な野菜が採れるよ)という予定を覚えてくれるので、同じものをスーパーで買ってしまうような事はありませんでした。思ったより種類も多かったので、大満足です。
【38歳女性・主婦】

毛織で参加しました。野菜、小さくていいので、自分で畑をしたいなと思っていましたので、栽培の現場を深く知ることができました。家庭菜園レベルではない、プロの農家のノウハウを直伝されました。
【58歳男性・会社経営】

「あの畑で採れた野菜だよ」とわかることで、プロクローリーやどうしようもなかった子供が、普通に食べられるようになった。
【28歳女性・主婦】

今週、申し込み期限は少し過ぎたのですが、近くにピッキングポイントがあるため、すぐ便利でしほ、もっと、ピッキングポイントを増やしてくれる事を期待してます。
【41歳女性・主婦】

よく、野菜の詰め合わせ等を買っても、食べ方や料理法がわからないと思う事が多いのですが、生産者さんが食べ方や保存方法を聞くことができたので、驚くことなく使うことができました。期間中は、料理するのも楽しかったです。是非、また参加したいです。
【35歳女性・主婦】

全ての野菜が順番に採れたてで美味しかったです!!
【21歳女性・学生】

地域社会の農業を支援したいという思いで申込みました。実際の野菜のシェアの量の多さにびっくりしました。もちろん、天候に恵まれた影響もあったと思いますが、楽しく野菜中心の食生活を営むことができました。
【33歳男性・会社員】

Farm Direct

CSAの受け取り方法(4パターンあります。)

- ① 産地へ取りに行く
- ② 宅配便配達で申込み
- ③ 自宅までピッキングポイントとして申込み
- ④ ピッキングポイントに取りに行く

ピッキングポイントとは、引取り場所のことです。

今日の私達の食生活は、利便性を重視した結果、本来あるべき消費者と生産者の間(つまり)が離れて、両者の距離がどんどん広がって来たのです。自分たちの食を新鮮な生産者の畑から採ることは、何より大切なことです。畑や田舎の景色が残り、実際に畑を巡ることで採れる野菜の味や香り、生産者と繋がっていき、利便性を追求した今の食生活とは、大きく異なることとなります。私達の食生活を支えている地域社会の農業に思い入れを少しずつ広げてみて下さい。皆様自身の健康、地域経済の活性化に繋がります。食生活の改善や食料自給率の向上に大きく貢献する事にあります。是非、お近くの農園を訪ねてみて下さい。

泉佐野地域 第1弾

先着順申込受付 限定60口

募集価格: 1口当たり(全年度) **¥1,980**(税込)
10口 ¥11,880(税込)

募集期間: 平成22年1月中旬～2月下旬
(5/15～6/30) 募集定員: 60口

募集内容: 1口あたり(1口あたり) 15食分(1週間分) 1食あたり 15食分(1週間分) 1食あたり 15食分(1週間分)

募集価格: 1口当たり(全年度) **¥1,980**(税込)
10口 ¥11,880(税込)

募集期間: 平成22年1月中旬～2月下旬
(5/15～6/30) 募集定員: 60口

募集内容: 1口あたり(1口あたり) 15食分(1週間分) 1食あたり 15食分(1週間分) 1食あたり 15食分(1週間分)

募集価格: 1口当たり(全年度) **¥1,980**(税込)
10口 ¥11,880(税込)

募集期間: 平成22年1月中旬～2月下旬
(5/15～6/30) 募集定員: 60口

募集内容: 1口あたり(1口あたり) 15食分(1週間分) 1食あたり 15食分(1週間分) 1食あたり 15食分(1週間分)

詳しくは ホームページを
ご覧ください。 <http://f-direct.net/>

15. リアルCSA永続的発展のPOINT

あてはまる項目が多ければ多いほど、発展します！！

- ① 安心、安全、美味しい野菜
- ② 農法のこだわり(有機農法や自然農法)
- ③ 消費地との距離が近い(都市型農業)
- ④ 地域住民が共感してくれる高い理想や理念
- ⑤ 参加者に癒しを与える空間づくり(ピッキング場所の提供等)
- ⑥ 参加者に楽しみを与える仕組み(収穫体験等)
- ⑦ おしゃべりな農場(情報発信等)
- ⑧ 参加者の要望への対応(CSAコーディネーターの導入等)
- ⑨ 栽培計画の緻密さ
- ⑩ 参加者に自主性を持たせる仕組み(過度のお客様扱いはNG!!)



まずは、コアな参加者やCSAコーディネーターを集めて

畑を中心にしたコミュニティを形成できるかがPOINT！！

16. 生産者・生産者団体のメリット

生産者・生産者団体のメリット (CSA)

- 1 収穫したものを全てシェアするので、廃棄処分がなくなると同時に、反収の安定を図ることが可能！！
- 2 4週間程度の短期のCSAから始める事ができるので、圃場の規模に合わせて、導入していく事が可能！！
- 3 市場出荷の為に袋詰め・そうじ作業等の調製作業を省くことができる。また、収穫・出荷作業はコアな参加者がサポートしてくれるので、栽培以外の作業時間を大幅に削減できる！！

ファームダイレクトサイトで行うメリット

- 1 「消費者へダイレクトに」という誰しもが持っている理念を、各生産者が個別に行うと、無駄な固定費が発生してしまい(例えば、サイト制作費や固定費等)、生産性の低い農業の競争力をさらに弱めてしまう。同じ理念の者が集まるメリットを味わうことができる！！
- 2 CSAコーディネーターの仕組みを利用し、役割分担を明確することにより、CSA導入・運営をスムーズに行うことができる！！
- 3 ファームダイレクトサイトは、NPO法人が運営するCSAを始めとした、生産者の直売を応援する為のファームポータルサイトなので、CSAだけでなく、畑の前での販売、業者向け直売、イベント出展情報等も無料で告知することができ、直売の機会を拡げることが可能！！
- 4 申込者や消費者とのコミュニケーションや連絡事項は、ファームダイレクトサイトのコミュニティ機能やメッセージ機能を利用することにより、簡単に申込者全員と一斉に連絡をとることが可能！！サイトの機能が、地域社会との永続的な関係を築く為のシステムなので、生産者・申込者双方が楽しみながら、参加できる！！

17. ファームダイレクトの理念

「もっと農を身近に感じる」ライフスタイルの提供

例えば、日頃前を通り過ぎている畑の野菜を食べることが、何よりも新鮮で安心・安全なんだということがわかったとしても、今の市場や流通では不可能です。

毎日食べる野菜にそこまでこだわらなくてもいいんじゃないの？そういう野菜って値段も高そうだし・・・と思う消費者も多いかもしれません。しかし、生産者から直接手に入れることのできる環境こそ、無駄を省き経済的である事を知っていただきたいです。

CSAに取り組むと、栽培したものを全て地域社会で消費するので、生産者の収入の安定や向上に繋がります。また、生産者は自分の栽培した生産物を誰が食べてくれているのかを知る事ができます。これらの事は野菜の安全性や品質・美味しさに大きく影響します。

参加者は、実際にCSAでシェアされる野菜の量と質を考えると、本当に「トクしてエコ」になります。スーパーや量販店に支払っている金額には、輸送費や保管の為に費用、陳列費などが上乗せされ、さらに、考えられない程多くの無駄なコストとCO2を排出します。低炭素社会を実現するためには、流通の仕組み自体を少しずつでも変えていく必要があります。

CSAに取り組んだり、参加したりするという事は、こだわりすぎた特別な事ではなく、むしろ経済的で環境に優しい自然な取り組みなのです。家の近くにCSAや直売をしている畑が増えてくれば、本当に無駄がなくなり、日本の農業はより良い方向に向かっていくことができます。

ファームダイレクトは、農業の産業化に対抗した、環境配慮型・持続可能な農業を実現する手段である「CSA」の普及・促進活動を通じて、安全で美味しい野菜を食べる幸せ、「農」に触れ合う楽しさ、やりがいのある農業、消費者も生産者も幸せになれる日本の農業の仕組みを構築していきます。

サポート窓口・お問い合わせ先

NPO法人 ファームダイレクト

ファームダイレクトサイトについてのご質問、お申し込みや手続きに関する質問、操作方法等の各種お問い合わせは

ホームページ <http://f-direct.net/>

Eメール窓口 info@f-direct.net

CSAコーディネーター申請フォーム <http://f-direct.net/?cmd=Regist&id=coordinator>

お電話・FAXでのお問い合わせ

お電話でのご質問やお問い合わせは

ファームダイレクト事務局
(定休日：火曜日)

TEL. 072-441-0471 (9:30~19:00)

FAX. 072-441-0641

NPO法人 ファームダイレクト

〒596-0102 大阪府岸和田市山直中町370番地の3

<http://f-direct.net/>

※ファームダイレクトはNPO法人ファームダイレクトの商標です。

